



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROBOTO

2026年(令和8年)6月5日号 No.2025

目次

■ 2025年のロシア極東港湾の貨物量	1
■ 統計速報	8
2026年1～3月のロシアの貿易／8	
■ エトセトラ	9
カザフスタン企業による連続プレゼンテーションのご案内／9	
■ トピックス	9
英国、ロシア関連の暗号資産網に制裁／10	
ムロオシステムズ、トルクメニスタンでデータセンター構想推進／10	
日本政府、NATOのウクライナ支援基金に約22億円拠出／10	
ロシア、航空燃料輸出を一時禁止／10	
キャセイ・パシフィック航空、香港・アルマトイ線開設へ／11	

2025年のロシア極東港湾の貨物量

解説

昨年1年間のロシア極東港湾(サハ共和国およびチュコト自治管区を除く)の貨物取扱量は、2億5,209万tとなり、前年から6.6%増加した。このうち、ドライカーゴが1億6,913万t(+9.4%)、液体カーゴが8,295万t(+1.2%)で、いずれも前年を上回った。

増加の要因には、ハバロフスク地方で新たな石炭積出ターミナルが稼働したことがある。これにより石炭の出荷量は前年比15.6%増と大きく伸びた。木材、梱包貨物、コンテナ、フェリー貨物の取扱量は前年を下回ったものの、鉱石、穀物、鉄鋼、非鉄金属は前年を上回った。

液体カーゴでは、輸出が制限された石油製品の取扱量が減少した。しかし、原油、化学品、液化ガスの増加がこれを補い、全体としてプラスを維持した。

ロシアの港湾貨物量は、コロナ禍の2020年や、戦争と制裁下にあった2022年と2023年にも増加を続けてきた。しかし2024年には軍事侵攻後初めて前年割れとなり、2025年もロシア全体では2年連続の減少となった。その中で、極東港湾のみが増加に転じた点は注目される。極東港湾の貨物量は2008年の8,041万tから17年間で3.1倍へと拡大しており、長期的な成長が続いている。

2025年は、戦争と制裁の影響が続く中で、欧州から遠く離れた極東地域の重要性が改めて浮き彫りになった1年だった。ロシア南部・西部では、ノヴォロシースクやウスチルガといった主要な原油輸出拠点がウクライナによるドローン(小型無人機)攻撃を受け、たびたび出荷停止に追い込まれた。これに対し、ロシア極東の積み出し拠点は地理的に攻撃対象となりにくく、さらに一昨年に相次いだ積